

## 講座⑦ 金属、陶芸、布、ガラス素材を糧にした作り手の話

<b>第1講義</b>	<b>布から布へ - サステナビリティと裂織 -</b>
<p>近年取り上げられているサステナビリティ。様々なブランドが注目し、取り組みも様々である。自身が現在制作している織物（裂織）は古布やいらなくなった布を裂いて糸をつくり、その糸を織って再び布にしている。同じような取り組みをしているブランドを取り上げ、現在のアパレル・テキスタイルを見ていきたい。また裂織の歴史～自身の織物（裂織）作品を紹介していく。</p>	
<b>第2講義</b>	<b>「ものづくり」で学んだこと - 11歳からはじめた陶芸 -</b>
<p>陶芸を始めたきっかけは小学校5年生の頃、近所の幼馴染の家のガレージが突然、陶芸教室になったことでした。そこから紆余曲折を経て、ものづくりの楽しさと奥深さに魅了され、陶芸を通じて自分のやりたいことに気づくことができました。本講義では、創作を生業とするまでの歩みや、制作の現場での試行錯誤、ものづくりを通して学んだことや大切にしている価値観についてお話しさせていただきます。</p>	
<b>第3講義</b>	<b>金属素材と作品</b>
<p>身近に使われている金属を思い浮かべて下さい。私たちの生活の中には多くの種類の金属が様々な場所で使われています。この講義では受講生と実際にやりとりを交えながら、金属の特性を知ってもらい、金属をどのように加工して作品にしていくかを解説します。 ※えんぴつと消しゴムをご用意ください。</p>	
<b>第4講義</b>	<b>アメリカ現代ガラスへの挑戦</b>
<p>1983年、ガラス工芸の勉強にカルフォルニア美術工芸単科大学に留学し、以来「作家が自分の手で実際に考えて制作する」現代のガラス工芸「Studio Glass Art」の発祥地であるアメリカで作品制作作品発表を続けてきた「自分の作家活動」をパワーポイントを使用し、当時の写真と映像を交え講義したいと考えております。</p>	
<b>第5講義</b>	<b>キルンワークの世界</b>
<p>ガラス成型技法のキルンワークは、3500年前の古代ガラス鑄造法を源流としている。長年ガラスの制作現場で携わってきた仕事の実例と板ガラスを主軸とした自作品を紹介し、キルンワークの魅力を探る。</p>	
<b>第6講義</b>	<b>染織表現の多様性</b>
<p>蠟の防水性を利用して布に模様を染める「蠟染め（ろうぞめ）」の技法を、これまでの作品や制作プロセスを用いて解説します。また、昨年、大阪くらしの今昔館で開催した「布のすがた-いまむかし」展に出品された作品を紹介し、多岐にわたる染織表現の世界を案内します。</p>	